

自分の思いを伝えようとする力・人の話を聞く力の育成 第2弾

【11月15日（水）～17日（金）コミュニケーション能力向上事業】

1 目的

○演劇型ワークショップを通して他者と協働して課題に取り組むことにより、コミュニケーション能力を高める。

2 講師

ONPO法人中野ケアセンター terrace（テラス）

- ・学校や自治体、官公庁、企業と共同でワークショップと呼ばれる体験型講習のプラン作成、講師派遣、運営などを行う団体
- ・メンバーは劇作家、演出家、俳優など

今回は東京からお二人（劇作家・俳優）の講師の方をお招きし、2時間ずつ3日間のプログラムを実施しました。講師の二人は大子町に泊まり込みで、本校の児童の実態に合わせた内容を工夫してくださいました。

これまで様々な取組を通して、自分の思いを伝えようとする力や人の話を聞く力の育成に努めてきましたが、更に今回は「身体を使って表現する」ことが加わりました。同学年でもない、縦割り班でもないランダムなグループの中で、話し合ったり動いたりしながら一つの物語を創り演じていく課程で、自分や他者の能力を認めたり、他のグループの発表を鑑賞したりしながら、共同で課題に当たることの大切さや喜びを感じたのではないかと思います。1日目はグループの中でおどおどしていた児童も、3日目には自分の役割を精一杯身体で表現したり感想を発表したりしていました。

<1日目：身体表現の体験>



（全体で）



（二人組で）



（小グループで）

<2日目：カードを使って話し合いながら創作劇にチャレンジ>



（どう思う？）



（どんな物語にしようか？）



（こうしたらいいんじゃない？）

<3日目：創作劇の完成・発表会>



（3つのグループがそれぞれの題に沿って劇を創り発表しました。初めての体験にみんな笑顔！）

【11月29日（水）大子町読書集会】

○令和5年度大子町読書感想文コンクール最優秀賞 表彰・朗読発表

6年 菊池 葉音さん

大勢のお客様の前で、堂々と表彰・朗読することができました。（感想文は裏）

主人公と自分の体験を重ねながら思ったことが素直に書けており、読者の心に響く感想文だと思います。ぜひ、ご一読下さい。

「強い心をもつためにできること」

さはら小学校 6年 菊池 葉音

図書室で本を探しているときに「5番レーン」という本が目飛び込んできました。水泳を以前習っていたことがあって、「どんな本なのかな」と思い、読み始めました。

主人公のカン・ナルは、水泳大会の決勝戦で負けてしまい、2位になってしまいました。その結果に納得のいかないカンは、「次こそ勝負に勝つ」「強くなりたい」という思いで今まで以上に練習に励みました。

「私はどうだろう・・・」と考えてみました。私は、勝負に負けるとすぐに落ち込んでしまい、悲しくなって、すぐに涙が出てきてしまいます。カンのように、リベンジしようという気持ちはわいてきません。どうして、そんなに心を強くできるのだろう。どうすればカンのように諦めず、挑戦できるのだろう。

私は、4歳からずっと水泳を習っていました。最初は、簡単な水遊びだったので、楽しくて仕方なかったことを覚えています。しかし、練習のレベルが段々と上がっていくと、正しいフォームが上手くできず、コーチに何度も怒られてしまいました。怒られるたびに水泳教室に通うことがつらくなって、「行きたくない」「やめたい」と母に泣いて訴えました。「自分でやりたいと言ったことだから、あきらめないでやりなさい」と言われ、しばらくは泣きながら通いました。今考えると、その時に、簡単に辞めないでよかったと思います。今では、基本の4泳法は泳ぐこともできるようになり、「自分はできるんだ」という自信になっています。「特技は水泳です」と胸を張って言えます。「心を強くするためには、自信をもつこと」なんだと思います。一つでも自信をもってできることがあれば、いろいろなことに挑戦できる気持ちにもなるのだと思います。

カンも、最初はきっと、落ち込んだり泣いたりもしたと思うけれど、何度も何度も練習をし、つらいことを乗り越えて、自信をもったから、強くなれたのではないかと思います。私も、この本を読みながら、更に挑戦する気持ちが強くなりました。

私は今、学校で行っている「夢道場」という活動の中心である社長に立候補しました。不安でやらなければよかったという気持ちの方が大きいです。児童・保護者・先生の前であいさつをしたときには、何を話せばよいのか分からなくなり、頭が真っ白になり、言葉に詰まり、立っているのがやっとでした。涙をこらえて何とかあいさつをすると、みんなが大きな拍手をしてくれました。とても誇らしい気持ちになりました。

小さなことでも挑戦することを積み重ねていくことが、心を強くすることなのだと思います。「どうせ自分なんて」と諦めることなく、「自分にもできるかもしれない」という挑戦する気持ちと、カンのように「次こそは」というリベンジする気持ちを持ち続け、挑戦を自信に変えながら、私の弱い心を少しずつ強くしていきたいと思います。

図書名	5番レーン
著者	ウン・ソホル作
出版社	鈴木出版

